

新緑の候 宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部会員諸兄には、恙なくお過ごし
の事と、衷心よりお慶び申し上げます。

先月は北朝鮮軍の動向から目が離せず、核や長距離弾道ミサイル発射実験をい
つやるのか、それに対して米軍はどう動くのか、連日TVのワイドショーはまるで人ご
とのように興味本位で報道するのを眺め乍ら、この国の末路を垣間見た思いです。

それについては今月も小川先生のメルマガで、以下に詳しく解説して頂きます。

さて四月の自衛隊行事は2日に都城駐屯地観桜会が開催されましたが、ご承知の
通り今年の開花は例年より遅く、まるで「観蕾会」の様相でした。

また8日は横須賀の武山駐屯地で自衛隊63期生徒入校式が遅咲きの桜花の中
挙行され、316名の若桜達が希望に胸をふくらませて営門をくぐったところです。

さらに10日は宮崎県護国神社にて、春季例大祭が戦没者遺族会員参加の下盛大
に祭行され、私も日本会議宮崎理事長として拝殿し玉串奉奠をさせて頂きました。

ところで本紙がお手元に届く頃、先月号に同封しました小川和久先生の憲法改正
セミナーが5/3に開催されますが、500の座席数は既に完売していますのでお早めに
入場されることをお勧め致します。

それでは5/3の14時、オルブライトホールでお会い致しましょう。

・米朝チキンゲームを総括する

4月25日の北朝鮮軍の創設記念日が「無事」に過ぎました。

核実験や大陸間弾道ミサイル(ICBM)を発射するといった挑発があるのではない
か、それに対する米軍の限定的な攻撃があるのではないか、そのときどうなるだろう
か、日本にもミサイルが飛んでくるのではないかと、固唾を呑んで見守った国民も少
なくなかったのではないかと思います。

しかし、北朝鮮は米軍の攻撃を自ら誘うような挑発はせず、かといって黙っていた
ら米国に押しきられたような印象がでるのを怖れたのでしょうか、過去最大規模の砲
兵部隊の演習を東海岸元山付近で行いました。

野戦砲や多連装ロケットが300門から400門と言いますから、陸上自衛隊が保有
する火砲(榴弾砲・自走榴弾砲530門、多連装ロケット99両)と比べても、そして国内
総生産(GDP)3兆9000億円ほどで茨城県と同じくらいの北朝鮮の国力から見ても、

精一杯の自己主張だったことがわかります。

そこで今回は、2月以来の米国と北朝鮮によるチキンゲームの展開について、簡単に整理しておきたいと思います。両者の動きは日本の外交・安全保障政策にとっても大いに参考になるものです。

別々の車に乗った2人のプレイヤーが互いの車に向かって一直線で走行し、激突を避けるためにハンドルを切ったプレイヤーが敗者とされる、まさに命知らずのゲームのことです。

【北朝鮮が攻勢に出ていた段階】

①2月12日、潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)を陸上型にした北極星2型を発射、ミサイルの近代化に欠かせないコールドローンチ方式(発射筒内のミサイルを高圧ガスで射出し、発射筒を離れたところでロケットエンジンに点火する)と固体燃料化を実現したことをアピール。

②3月6日、準中距離弾道ミサイルスカッドER(射程1000キロ)4発を秋田県男鹿半島沖から石川県能登半島沖の日本海に発射、80キロ間隔で着弾させ、兵器としての信頼性と精度の向上を見せつける。うち3発が日本の排他的経済水域(EEZ)内に着弾。

③4月5日、東海岸から準中距離弾道ミサイルもしくは中距離弾道ミサイルを発射、60キロで着弾したことから失敗と見る向きもあったが、高度189キロまで上昇し、極端な放物線を描くロフテッド軌道だったと見ると、3月に米軍が韓国内に配備を開始した高高度戦域防衛ミサイル(THAAD)を意識した発射とも分析できる。垂直に近い角度で落ちてくるうえ、落下速度も上がるロフテッド軌道はTHAADなどのミサイル防衛網でも迎撃には困難が伴うからだ。

【米国が反転攻勢に出た段階】

④4月6日、米国は市民に対する化学兵器を使ったと思われるシリアのアサド政権側の空軍基地にトマホーク巡航ミサイル59発を発射、これによって北朝鮮とイラン(アサド政権の後ろ盾であり、北朝鮮と核・ミサイルを共同開発してきた)を威嚇するだけでなく、中国、ロシアの反応を見る動きに出た。

フロリダのトランプ大統領の別荘でシリア攻撃を告げられた習近平国家主席は反発や非難の姿勢を見せず、ロシアも表面的には米国を非難したものの、予定されていたティラーソン国務長官のロシア訪問をキャンセルせず、それどころかラブロフ外相とは5時間、プーチン大統領とも2時間も会談した。

北朝鮮側から見ると、「中国もロシアもトランプの米国とぐるでアテにならない」と映るような「北朝鮮包囲網」が形成された。

⑤4月13日、米国はアフガニスタンでIS(いわゆるイスラム国)の地下陣地などに対して、通常爆弾では世界最大で「全ての爆弾の母」と呼ばれる大規模爆風爆弾(MOAB)を投下、戦闘員96人を殺害した。MOABは、北朝鮮が「ソウルを火の海にしてやる」と威嚇し続けてきた非武装地帯北側の野戦砲や多連装ロケットの地下陣地を無力化するのに有効な兵器として、その威力を北朝鮮に見せつけるものだった。

⑥同じ4月13日、米国は南シナ海からオーストラリアに向かう予定だった空母カール・ビンソンの打撃群を朝鮮半島に向かわせるよう予定を変更、だめ押しとも言うべき圧力を加えた。

⑦さらに、米国西海岸サンディエゴから2隻のイージス駆逐艦を空母カール・ビンソンの打撃群と合流する目的で派遣、北朝鮮東海岸の豊溪里の核実験場から400キロ地点に展開した。搭載しているトマホーク巡航ミサイルを発射した場合、25分ほどで直撃できる距離だ。

【北朝鮮が態度を軟化させた段階】

⑧北朝鮮の姿勢の軟化は4月13日、金正恩委員長が4月15日の太陽節(祖父・金日成主席の105回目の誕生日)までに完成させるよう厳命していた「黎明通り」(高層ビル群などで構成される新都心)の完工式の形で表された。金正恩委員長を排除(殺害)する目的の米韓両軍による「斬首作戦」が噂される中、金正恩委員長はテープカットに臨み、最も信頼しているとされる実妹の金与正党副部長とともに外国メディアの至近距離からの撮影を許したのだった。

黎明通りの完工式への登場は、「斬首作戦」を怖れていないこと、そして経済制裁が効果を上げていないこと、経済建設と核開発を同時進行させる「並進路線」によって経済建設が順調に進んでいることを世界に示すと同時に、逃げ隠れしていない姿によって、戦争をする気がないことを米国に示すという重大なメッセージが込められていた。

⑨そして4月15日の太陽節の軍事パレードは、並進路線の重要な柱である軍事力整備が、北朝鮮が頭を絞って構築してきた「非対称型の軍事力」の形で着実に進められ、経済建設を支える抑止力を備えつつあることを具体的に示すものとなった。

従来の軍事パレードは、通り一遍の部隊と兵器の行進に過ぎなかったが、今回は「非対称型の軍事力」の2本柱である1)核兵器開発と弾道ミサイル開発、2)世界最大、20万人とも言われる特殊部隊を、世界の目の前に登場させる形を取った。

初登場した大陸間弾道ミサイル(ICBM)など7種類の弾道ミサイルは一定の技術的進展を示し、核弾頭を搭載すれば外国の攻撃をためらわせるに足る核抑止力を保有しつつある現実を示した。

特殊部隊の任務は、平時から韓国国内に潜入させておき、平素は善良な市民として生活しながら、命令があれば直ちに行動を起こす態勢を見せつけることによって、米韓両軍による攻撃を抑止しようとする目的を持った部隊、攻め込まれたら徹底的にゲリラ戦を展開して米韓両軍を苦しめる目的の部隊が含まれている。

⑩そうした流れの中で4月16日、北朝鮮は東海岸から弾道ミサイルを発射、すぐに爆発して失敗が確認された。一定の信頼性を備えた準中距離弾道ミサイルなどと考えられ、北朝鮮が意図的に自爆させた可能性についても分析が進められている。

⑪同じ4月16日には豊溪里の核実験場の3面のコートでバレーボールに興じる人影が米国の民間衛星によって撮影され、北朝鮮がすぐには核実験に踏み切るつもりはないというメッセージを、そういう形で発信したものと受け止められた。人影が認められる核実験場を米国が攻撃することはないとの前提だが、これがカムフラージュではないかとの見方も出ている。

⑫そして4月25日の軍の創設記念日に核実験や弾道ミサイル発射を行わず、チキンゲームは米国の「寄り切り」の結果となった。

むろん、隙あらば核実験や弾道ミサイルの発射を狙っているわけで、日本としては淡々と防衛態勢を強化し、北朝鮮の軍事的脅威が低減される方向に外交的努力を傾注しなければならないのは言うまでもないことです。(小川和久)

来る5月14日にえびの駐屯地#36周年記念式典が予定されており、稲田連隊長の後輩の習志野空挺隊員達が、始めてえびのの大空に落下傘の花を咲かせる企画がありますので、是非えびのまで家族お揃いでお運び下さい。

結びに憲法改正に向けて、支部会員皆様のご理解と更なるお力添えを、伏してお願い申し上げます。

平成29年5月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉和彦